斗争ニュース

第九号

坂井発動機製作所争議団
向島区寺島町五五五、工聯本部

1935.5.13

長郷帽子工場との共同斗争を提唱せん
坂井工場争議団から

本所の長郷帽子工場は早く待遇改善問題からストライキに入り、斗争の最中にある。坂井争議団は資本家共同の利害は労働者共同の利害に相反すること、並に江東地方一般の労働者を自らの要求を以て奮起せしむる機会をつくることの必要を高調し一定のスローガンをかかげて共同斗争を決行せんことを長郷帽子工場争議団に提唱せんとする声をとりあげる筈である。

東交の三ノ輪支部から金五円の寄附あり

去る五月十日東京交通労働組合新夜支部から争ぎ基金の寄附あったが、十二日夜東交の三ノ輪支部から数名の代表者争議団を訪ねて大いに同斗をゲキ励し且つ斗争資金として金五円を寄附された。争ギ団員は益々勇気を鼓舞し必勝の意気旺んなるものがあった。

残留徒弟四名の引渡要求あらん

秋田から上京した徒弟の父木曽久吉氏は一切を争議団に委任して帰郷したことは既報の如くであるが更に同郷知人の息子にして徒弟として目下坂井工場に罐詰にされてゐる残留者の中四名に対する委任状に署名捺印の上該委任状は右四名の父兄から争議団に送り届けられることになってゐる。その委任状受取次才争議団は早速坂井工場に右四名引渡方を要求することになるのであるが何れ一悶着は免れないであらうが坂井の出様次才では実力に訴へても要求貫テツして見せると争議団側の鼻息は相当に物凄いものがある。

坂井から叩き出された二名の少年工語る

坂井工場は創立十年この方百有余人の徒弟工を採用したがその中不完全ながら契約を履行して年明け、暇をくれたものは僅か三人で、それも勿論満足なものではない。今回のストライキ以来虐使、虐待の上に叩き出され、恨を呑んで、今日あることを待ち望んでゐた多くの徒弟工の中、最近争議団を訪問してその当時の事情を語った諸君は既に十名もある。

去る十二日朝早く争議団を訪ねて来た二人の少年工、関沢、星の両君の語る処も同様に涙なくしては聞かれない。

関沢君は徴兵検査までの年期で年明け同時に二百五十円を貰ふ約束であったにかかわらず、一年八ヶ月も酷使した揚句、只主人側の気に入らないといふ理由で小使銭は自分の後輩よりも少くされ、それに毎日の如くに仕事上、身上のことで難クセをつけられ、父兄から来た手紙は坂井庄次郎が本人の目の前で勝手に開封するし、或時は殴打されたこともあって遂に居たたまらずして身を引かなければならず、勿論一文もくれず私物のシャツ、仕着のオーバー(五円だが二円半それは自弁)も[illegible]郷里に帰った。星君も二年間酷使されて病気になったら汽車賃だけくれて外に一文の手当もくれず叩き出された。右両君共健康保険証は他人に使はれてゐたことは勿論である

坂井工場に抗議文を突きつける
応援斗士二十名で押しかける

江東地方労働組合協ぎ会は坂井争議団応援の方法として坂井工場に抗議文を突きつけることに決定したことは既報の如くであるが、十三日午后八時加盟団体から二名宛及工聯本部、足立支部、争議団からの諸君と合計二十三名で坂井工場に赴いた。

工場内外の物々しい厳戒

何処から発せられたか出所不明の風説によってか、既に亀有、葛飾署では署員総動員、数十名の警官隊によって工場の内外が警戒されるといふ大騒ぎだ。それは当夜数百名の大衆が坂井工場を襲ふといふ流言が飛んだことに信を措いたらしい。協ぎ会代表は今夜坂井工場を訪ねた理由を述べて工場主に会見を申込んだ。然して押問答の後結局六名の代表が会見することになった。

抗議文の朗読に坂井傾聴す

代表六名は松浦(全評)、沢田(借家組合)、鈴木(工聯)、管沢(全映)、早尾(江東一般)、気賀沢(争ぎ団)で工場主側は坂井夫婦、松崎事務員、弁護士らしい男であった。

全評の松浦君音吐朗々抗議文を読み上げ江東地方労働者の態度と決意を示すや、坂井夫婦は顔色蒼白の上極度に狼狽し、言葉も叮重に「確かにお受けします。御苦労様で御座います」と挨拶した。かくて代表は堂々と引き揚げ、門外の応援団にこの経過を報告するや同歓呼して迎へた。

日を逐ふに従って戦備は充実し坂井膺懲の狼火は漸次拡大して行くのだ。各工場は次から次に動揺して行く。我々は必勝の確信に於てのみ斗ふ。

争議団打ち揃って清遊

坂井工場をテッテイ的に屈服させるまでは一歩も後に退かぬといふ争議団の方針は一定不変であり持久戦は勿論覚悟、団員同元気と快活、悠々談笑の間に朝早くから夜はおそくまで江東地方一帯に亘る「斗争ニュース」ビラの配布、訪問、情勢調査及その報告、各種会合の組織等で殆ど寧日なしの猛活動である。

去る十二日は忙中の閑を得て一同坂井工場附近の堀切中堤に集合、撃剣、フットボール、鉄投げ、労働歌の高唱、演説の稽古やらで一日大いに英気を養ふ。坂井工場大いに威圧を感じて狼狽する。赤旗風に翻って坂井を望む。痛快々々!

坂井の頑迷に憤慨する手紙続々
事態悪化は当然

坂井の頑迷不レイは今や警察さへも驚いてゐる程で町内の不人気は益々拡大して行く、争ギ団は勿論応援団の諸君は何れも激昂して「彼坂井を葬れ!」の声は漸次濃厚になって来てゐる。「斗争ニュース」演説を見聞せる工場労働者達はどしどし争ギ団に手紙を寄せて大いにフンガイしゲキレイの波は潮の如くに高まりつゝある。争ギ団に手紙を寄起した労働者の所属工場をあげると次の如し

一、隅田鉄工所、相馬石鹸、東京ゴム、三共製薬、本庄工場、日本染織、大日本紡績、林製紙工場、三目ゴム、等々